リビング・オブ・ザ・イヤー２０１４ 審査票コメントより

審査員の方々よりいただきましたコメントより、来年度の実施に向けて検討すべきコメントを抜粋して掲示いたします。

ここにあげるご意見の多くは、審査基準が明確でないため迷いがあったというものですが、その逆に「全てが素晴らしかった。あえて選ぶならば、自分としてはこういう高齢者住宅がいいと考えた」というご意見を多くいただきました。

掲示はいたしませんが、評価ポイントを記入いただいた審査員が多く、大変感謝いたしております。審査員の皆さまが熱心に審査いただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

リビング・オブ・ザ・イヤー実行委員会
委員長　森 川　悦 明

- 資料とプレゼン10分では施設の内容を知る事はなかなか難しかった。
- 採点の基準もあまりはっきりしていなくて、何をもって最高なのか決定が難しかった。
- １つを選択することは難しいことであり、どのような意味があるのかと思った。
- 知りたいのは介護、ケアサービスの事（人的）であり、次回はその点が把握できる視点があるとと思う。
- プレゼン時間の公平性を大事にしつつ、良い取り組み事例は共有できればと思う。
- 今後ますます必要となってくる看取りの機能に多くの施設が取り組んでいるのが感銘を受けた。
- 様々な形態のホームのプレゼンでしたので、大賞の選出に大変苦労した。各ホームともハード面だけではなく、ソフト面にもたいへん力を入れていることが十分に伝わり、すべてのホームに大賞をあげたいと思った。
- 全国多くの施設から選出された施設なので甲乙つけられなかった。自分が世話になるならとの独断と偏見で上記施設に投票した。
- 法人の経営内容についても知りたかった。
- 最終選考にふさわしい、各施設の特色が他との差別化した理念に繋がっているように感じた。
- ここなら私の親も自分もお願いしたい、または入居してみたい施設だった。
- 選考基準は数年前でしたら親を入れたいかどうか、今は自分が入りたいかどうかが基準となった。

- プレゼン・提供資料を通じて感じたことは、評価項目を意識して、各項目ごとに得点を得られた施設とそうできなかった施設があり、これが結果として、大きな評点の差につながったように思う。
- 供給側目線でなく、ユーザー目線で評価した。
- 独断と偏見で評価した順位。
- どのホームも素晴らしかった。こんなホームが沢山出来れば、日本はもっともっと楽しく暮らせる国になると実感した。
- 組織としての経営状態の説明があってもよい。
- 一社の時間をもう少し短くして10社程度あっても良かったのではないか。全体の分母ももっと多い方がよい。
- 遠方より参加されたプレゼンであり、制限時間で一方的に終了させるのはいかがなものか？
- 7つから1つ選ぶのは大変。せめて上位から3、2、1のポイント制がよい。

以上